

準決勝 市立船橋 対 習志野

市立船橋は1-4-4-2のシステム。立ち上がりはロングボール主体で相手コートへ侵入する中、空中戦とセカンドボールの攻防を優位な状態にして回収率を高めると、早い段階でボールを握り攻撃を組み立てていく。相手の守備状況を見極めていく中で、SB裏へのランニングと配球を増やし、クロスボールからゴールを狙う形でやりきろうとする。ボールの失い際、相手のパスの起点に対しては強度のあるプレッシングを前線から連動して自由を奪っていく守備を徹底した。

対する習志野は1-4-4-2の中盤ダイヤモンドのシステム。押し込まれる時間帯が多くなったが、アンカーの選手が両CB間のギャップを埋め、3ラインの距離をコンパクトに保った守備ブロックでゴール前を手厚く守る。明確に弾き返したボールからのカウンター攻撃で複数の選手がスプリントで攻撃に参加していく。最終ラインを前進させると、守備ブロックをミドルサードに定め、相手のスペースを狭くしてボールの回収を狙う。奪った瞬間の仲間同士の距離が関わり合っており、テンポを上げたパスワークで相手のプレスを剥がしていき、厚みある攻撃に転じていた。

後半、市立船橋は前線の選手の動き出しとギャップを通すスルーパスを活用し、直線的にゴールに向かう攻撃で立ち上がりに⑩郡司が先制点を奪う。習志野は保持したボールをグループで動かしながら、前線の選手が連携しカットインするドリブルとフリーランニングで崩しに行く。後半も市立船橋の個々のプレー強度が落ちることなく、習志野の良さを引き出させない守備が継続された。試合終盤、市立船橋はFKからファーサイドに飛び込んだ⑪渡邊のダイビングヘッドで追加点を奪い、決勝に進出した。

準決勝 日体大柏 vs 流経大柏

共に1-4-4-2の布陣のミラーゲームでスタートする。日体大柏は GK からボールを動かしながら前進を狙うも、流経大柏は前線からのチェイシングでボール奪取を狙い、スピードに乗って SH と SB の関係からのクロスから得点を狙う。

対する日体大柏は LSH⑩古谷 RSH 平野 FW⑮ウィリアム FW⑪吉田の身体能力を活かした攻撃が目立つ。

31分日体大柏 CB③小金谷から RSH⑨平野へのサイドチェンジが入る。カットインから左足でのファーサイドへのアーリークロス。遅れてフリーとなった⑩古谷が PA 内で落ち着いて胸トラップからのボレーシュートで先制する。対する流経大柏は、FW⑱岡本の高さとスピードを活かし、縦に速い攻撃で日体大柏ゴールに迫るも得点は奪えず、前半が終了した。

後半に入り流経大柏は⑦都築、⑨大堀、⑩小西の3人の選手交代。前半同様縦に速い攻撃でゴールに迫る。⑩FW 小西のドリブルからチャンスを作り、流経大柏ペースで試合が進むもゴール前の体を張った堅い守備を中々崩せない。

すると59分日体大柏がロングカウンターを仕掛ける。リスクを侵した流経大柏に対し、⑮ウィリアムと⑪吉田の縦関係でボールを収め、⑨平野へ展開、スピードに乗ったまま裏へ抜け出した⑪吉田が冷静に流し込み2点目を奪う。

日体大柏はボールロスト後も素早く守備ブロックを形成し、流経大柏の連動した突破もうまく妨害しながらカウンターを狙い、71分これもカウンターから自陣からのクリアボールに抜け出した⑪吉田のドリブルからラストパス、⑮ウィリアムが PA 内で受けゴールネットを揺らした。

その後も集中を切らさずコレクティブに守り抜いた日体大柏が3-0で勝利し、決勝に進出した。

決勝 船橋市立船橋高校 v s 日本体育大学大柏高校

前日行われた準決勝から連戦となった決勝戦は市立船橋、日体大柏共に1-4-4-2のシステムでゲームがスタートした。

前半立ち上がり、市立船橋は⑨青垣⑩群司がスペースに流れてボールを引き出し、ドリブルで仕掛けることでチャンスを作ろうと試みる。一方の日体大柏は⑮オウイエウイリアムをターゲットにしたロングボールと⑩古谷のドリブル突破でゴールを目指す。

両者共にシンプルにロングボールを使いゴールを目指す展開となった。

先制したのは市立船橋。前半19分⑨青垣が右サイドのスペースで受けたボールをペナルティエリア内の⑩群司へと繋ぐ。群司は相手DFを背負いながらもうまく反転し左足のシュートで得点を奪った。対する日体大柏は23分、左CKをインスイングでゴール前に送り、混戦の中から⑩古谷が押し込んで同点に追いついた。

その後市立船橋は⑥北川⑮白土が中盤でボールを受ける回数を増やし、短いパスを使いながら空いたスペースを使う攻撃で追加点を奪いに行くが日体大柏の⑫原田を中心とした粘り強い守備によりゴールは奪えず、1-1のまま前半が終了した。

両チーム共に前半からメンバー交代をせずにスタートした後半、日体大柏は前半から繰り返してきた⑩古谷のドリブル突破により得た左CKを⑮オウイエウイリアムが完璧なタイミングで合わせたヘディングシュートで逆転に成功した。さらに攻勢を強めたい柏日体に対し、市立船橋は失点から3分後の54分、左CKから⑲藤田のヘディングシュートで試合を振り出しに戻す。

連戦の疲労もあり、両チーム共に選手交代をしながら活路を見いだそうとする。市立船橋はDFラインからシンプルに相手の背後を狙うボールやサイドから相手のDFラインとGKの間にボールを供給することでチャンスを作り出すが得点には至らず前後半の80分が終了した。

延長戦は疲労からオープンな展開となり両チーム共にゴール前のシーンが多くなる。

市立船橋は延長後半開始直後の92分、中盤エリアのファールで得たFKをゴール前に放り込み、2ndボールに反応した太田のシュートはゴールの枠をとらえることはできなかったが相手DFのクリアミスを誘い最後は④懸樋が押し込んで決勝点を奪った。

両チーム共に攻撃に特徴のある選手が多く、ロングボールから個の力で局面を打開しようとする展開が多くなったが、全5得点中4点がセットプレーによるものであり、セットプレーの重要性を再認識する決勝戦であった。一方、セットプレーにおける守備や高さやスピードなど攻撃に特徴のある選手に対してチームとしてどう守るのか、守備における課題も見えたゲームであった。連戦の中でも100分間を通して球際での闘いも激しく、最後まで死力を尽くして闘った両チームの健闘を称えると共に市立船橋の全国大会での活躍を期待したい。

千葉県立土気高等学校

平塚 智